

年 組 名前：



精油を製造する蒸留装置を見守る社員
＝富士川町最勝寺

富士川町の香り 商品化

リサイクルインクカートリッジ製造のエヌテックス（富士川町最勝寺、中沢弘一社長）は、地元産ユズや町内の耕作放棄地で栽培したハーブを使った精油を製造、販売している。地域貢献につなげようと事業化し、研究者の指導を受けて今年4月に販売を始めた。町内の山林での間伐時にたつスキやヒノキの枝葉も活用しており、中沢社長は「事業を通じて地域貢献をしていきたい」と話している。

（三枝大博）

エヌテックス 地域貢献へ新事業

商品は「梨之香」のブランド名で販売している。精油のほか、芳香蒸留水、アロマミスト、アロマストーンなどを用意している。香りの種類はユズ、ヒノキ、スギ、ハーブの日野春ブルーローズマリ、コモンセージなど。

2023年に新事業のアイデアを社員から募ったところ、町産のユズを利用した精

ユズ、ハーブ、間伐材 精油、アロマに

油製造の提案があり、地域貢献につながるとして製品化を進めてきた。薬学博士で植物療法研究者の村上志緒さんから指導を受けて2年間、精油製造の技術を研究したほか、自社工場内に精油などを製造する蒸留装置を整備した。峡南森林組合の協力で、間伐時にたつヒノキやスギの枝葉を譲り受けているという。ハーブは町を通じて借りた耕作放棄地3カ所（約千平方メートル）で栽培している。

県内の伝統工芸品との共同企画も進めている。南アルプス市の若草瓦会館と共同で、鬼瓦のアロマストーンを開発したほか、市川三郷町産の和紙を利用したアロマカードも製品化した。中沢社長は「蒸気浴のロウリュウでの利用も試行している。さまざまな形で販路を拡大していきたい」と話している。

商品価格は香り5種類の精油セット（各200ミリ）で3740円など。主に電子商取引（EC）サイトを通じて販売している。



アロマブランド「梨之香」の商品

（2026年9月10日付 山梨日日新聞7面）

問1

富士川町のリサイクルインクカートリッジ製造会社が販売を始めた商品は、何を使って

製造していますか。

.....

問2

会社はハーブを、どのような場所で栽培していますか。

.....

問3

県内の伝統工芸品との共同企画では、どのようなことを行っていますか。2つ答えてください。

-
-